

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	タイ王国マヒドン大学における仏教美術のフィールドワーク研修			
学部・研究科名	人文学部			
実施期間	2016年2月12日～2月17日			
研修先(国・都市・施設名)	タイ王国・バンコク・サラヤ・マヒドン大学			
参加学生数		: 14名	知の森基金からの支援者	: 14名
プログラム概要	本プログラムは、人文学部の授業「芸術コミュニケーション特殊講義」の一環として、タイ王国・マヒドン大学の学生たちとの交流やバンコク・アユタヤの仏教美術のフィールドワークを実践することを通して、アジアにおける文化交流に寄与できる人材の育成をすることを目的としたものです。			

実施状況・成果

2月12日から17日まで、「芸術コミュニケーション特殊講義」の一環として、タイ王国のマヒドン大学とバンコク・アユタヤでの仏教美術のフィールドワーク研修を実施いたしました。参加学生は、哲学・思想論分野から10名、芸術コミュニケーション分野から3名、比較文学分野から1名、2年生から4年生まで様々の計14名です。事前に6回のミーティングを重ね、3つのグループに分かれて、タイの仏教の歴史、バンコク市内の寺院とその様式などについて事前学習を行いました。

はじめての海外旅行という学生も複数いましたが、それぞれがアクティブに活動し、同じアジアの中にある異文化に触れながら、たくましく6日間の研修に取り組みました。

13日は、各グループでバンコク市内の仏教寺院を訪問し、それぞれの仏像や寺院建築について、事前学習と実際との相違点などを確認していきました。バンコク市内の移動は電車やタクシー、そして渡し舟などです。学生たちは現地の人々ともコンタクトをとりながら、自分たちのプランを実行できました。

14日は、バスでアユタヤへ移動し、世界遺産地域にて、ビルマ軍により滅ぼされたアユタヤ朝の仏教遺跡を見学しました。豪華絢爛なバンコク様式とは異なり、アユタヤの仏教遺跡に独特のスタイルを見ることで、仏教美術の変遷を知ることができました。

15日はサラヤにあるマヒドン大学を訪問し、人文社会学部の学部長をはじめとする諸先生方から歓待を受けました。学生たちは、マヒドン大学の学生たちに連れられ、自然豊かなキャンパスを見学した後、タイの伝統舞踊の鑑賞、そして少人数での英語での交流会などに参加しました。身振り手振りを交えて、積極的に交流しようとする両国の学生たちの姿が印象に残っています。

16日は見学予定の国立博物館が休館だったため、ウィマーンメーク宮殿の見学を行い、全日程を終えました。実り多い研修になったと思います。知の森基金からの援助に厚く御礼申し上げます。

学生の声①ー人文学部 学生

マヒドン大学との交流で、自己紹介の時間に聞かれたことにうまく答えられないもどかしさがあった。もっと英語を勉強する必要があると感じた。それと同時に、非言語コミュニケーションでのアプローチも身につけたい。マヒドン大学の学生たちの盛大なもてなしと、明るさと優しさに答えるため、今度は彼らを信大にも招待したい。両手を合わせる挨拶には、親指のつけ先で、額はブツダ、鼻先は両親、あごは友人へとなると教えてもらった。別れ際、あご先につけて「コップンカー」と挨拶した時間が忘れられない。

学生の声②ー人文学部 学生

事前学習では知らなかった、実際の黄金仏の大きさに圧倒されました。寺院での参拝の仕方も日本と異なり、額は地面につける形で、そこに信仰の深さを感じます。ワット・サケートの鳥葬の展示も印象的でした。ラーマ2世の頃にコレラが流行し、大量の遺体がこの寺院に運ばれ、ハゲタカにつつかれたそうです。日本ではこのような展示を見たことはありません。日本は死や怪我、病氣に対して潔癖すぎるのかもしれない、と文化の違いを感じました。

マヒドン大学の学生たちとの交流会



ラーマ5世ゆかりのバーン・パイン宮殿にて

